

元町・山手地区の震災復興施設群が 土木学会の選奨土木遺産に認定されました

1923年の関東大震災後に整備され、現在横浜市で管理している山手隧道、櫻道橋、西の橋、谷戸橋、打越橋が、「元町・山手地区の震災復興施設群」として、平成27年度の土木学会の選奨土木遺産に認定されました。

なお、11月には認定式を開催予定ですので改めてお知らせいたします。

1 選奨土木遺産に認定された施設

【山手隧道・櫻道橋】 1928年（昭和3年）完成

市内の復興事業でも最大級の規模。山手隧道は戦前の道路用トンネルとしては最大級の幅員で、外観表面は石張り仕上げとなっている。上路式アーチ形式である櫻道橋は、隣接する山手隧道と同様に化粧石張りが施されており、景観調和が図られている。

【西の橋・谷戸橋】 1926年（大正15年）、1927年（昭和2年）に完成

開港場の整備にあたり開削された堀川に架けられた橋であり、横浜の都市の歴史を振り返った場合に重要な位置にある。震災後に復興事業の一環で技術が普及した鋼アーチ形式となっている。谷戸橋の親柱はアールデコ調のデザインでシンボル性が高い。

【打越橋】 1928年（昭和3年）完成

切通しに架けられた橋梁で、当該地区周辺の多くの外国人移住者を意識して建設された優れた土木遺構の一つ。上部工はアーチリブとトラス補剛材で構成される鋼ランガー橋。



やまてずいどう
山手隧道



さくらみやばし
櫻道橋



にしほし
西の橋



やとほし
谷戸橋



うちよしばし
打越橋

※裏面に位置図

2 元町・山手地区の震災復興橋梁施設群とは

1923年の関東大震災により、横浜市内にある土木施設の多くが崩壊しました。震災後、新設・改築された施設は、綿密な地質調査等を反映し耐震・耐火構造として設計がなされるとともに、近代的な意匠も取り入れました。

その中でも、元町・山手地区の震災復興施設群は、モータリゼーションによる市電の廃止や高速道路の建設といった都市の変遷の中でも、現在まで廃止・架替えが行われることなく約1世紀にわたり市民の生活を支えてきました。当地区は、横浜発展の礎である開港の場となった関内地区に隣接しており、震災後に建設されたこれらの施設群は横浜の都市形成において特に重要な役割を担ってきました。

3 土木学会選奨土木遺産とは

土木遺産の文化的価値を評価するとともに、先人の土木技術者の功績を讃え、歴史的土木構造物の保存に資することを目的として、公益社団法人土木学会が、平成12年度に創設した認定制度です。

【参考】位置図及び施設諸元



位置図

山手隧道	竣工年 1928年(昭和3年) L=219m W=10m
桜道橋	竣工年 1928年(昭和3年) L=14.8m W=6.3m
西の橋	竣工年 1926年(大正15年) L=32.8m W=22m
谷戸橋	竣工年 1927年(昭和2年) L=29m W=15m
打越橋	竣工年 1928年(昭和3年) L=38.4m W=7.3m

※L：橋長、W：幅員

※写真データを提供できます。

お問合せ先	
道路局橋梁課長 菊地 健次 Tel 045-671-2752	